

地域ケア会議の実践事例（新潟県柏崎市）

多職種協働による個別ケース検討

【目的】 ①高齢者家族、介護保険サービス、地域の支えの状況（役割や支援内容）を確認する。

②支援者同士が、お互い顔の見える間柄となり、支援が円滑に進むようになる。

【参加者】 主治医、息子、地区民生委員、町内会長、小規模多機能介護事業所（管理者、CM）、社会福祉協議会（弁当宅配）、柏崎市認知症地域支援推進員、訪問看護、地域包括支援センター（3職種）、市役所担当係保健師

【会場】 地域のコミュニティセンター

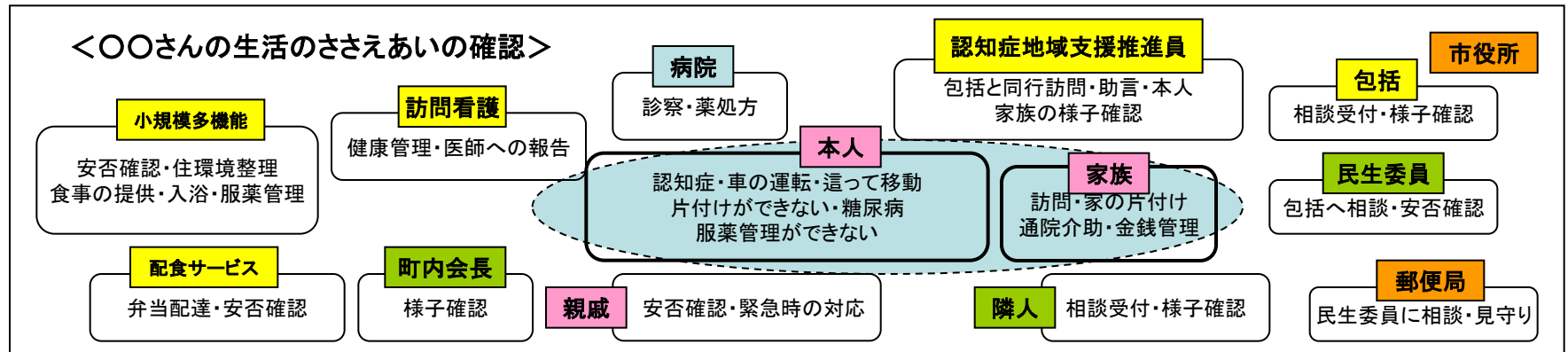
【事例概要】 単身の認知症高齢者。最寄の郵便局が、認知症状に気づき、民生委員に連絡。

【課題】 ①適切な受診治療ができない②主治医への受診時の情報提供 ③車の運転 ④金銭管理 ⑤体調不良時の対応

【地域ケア会議プログラム】 <開始前の確認事項：●会議主旨の説明●自己紹介●個人情報、守秘義務について説明と同意>

(1) 相談の経緯を説明

(2) 現在の状況確認：支えあいの状況をホワイトボードに書き、それぞれの役割を確認する。（下記の関係図参照）



【支援方針】 ①事故防止のため：直に運転中止。（本人への説明は息子。近所や関係者が声かけ。）

②体調不良時の対応について：発見者が息子と親戚に了解を得て、救急搬送。訪問は複数対応とし、事前に駐在所に相談しておく。

③火事の防止：安全な暖房器具への変更。冬期間は長期ショートステイ利用を検討。

④糖尿病管理：身体状況や食事状況の確認（小規模多機能、訪問看護、包括、配食サービス）。

⑤お金の管理：家族が通帳管理。必要に応じ、日常生活自立支援事業の利用。

【波及効果】 ○関係者が顔を合わせることで、支援者の連携強化を図ることができた。（民生委員より「今までは、一人で不安を持ってやってきたが支援者が多くいることがわかって、肩の荷が下りた」とのコメントあり）

○単身高齢者世帯が多い地域であるが、民生委員や町内会長、近隣等、複数で見守りを行なっている地域の体制を確認できた。

○主治医から、認知症高齢者の運転について、そのリスクやメカニズム、運転をやめる際の配慮等、専門的なアドバイスを得る機会となった。

○郵便局から民生委員経由で相談があり、包括と連携できた。今後、郵便局職員に、認知症サポーター養成講座の開催を予定している。